

1941

市民ケーン

CITIZEN KANE

映画で学ぶ 「メディアを持つ者の力」

対象：中学生以上

名前

年 組

1 メディアを、一人の人が思いのままにできたら？

新聞、テレビ、そして今はSNS。メディアは、人々が「何を知り、何を考えるか」に大きな影響を与えます。この映画の主人公は、**巨大な新聞社を持ち、見出しで世の中を動かした男**です。

 その情報を「誰が」出しているか。 「バラのつぼみ」

新聞王ケーンが死の間際につぶやいた言葉。その意味を探る記者が、ケーンを知る人々に話を聞いて回することで、映画が進んでいきます。

※ケーンのモデルは、実在の新聞王だと言われています（映画は創作です）。

2 メディアを見る4つの視点

 ① 誰が持っている？

その新聞・番組・サイトは、誰が運営している？

 ② 見出しは中身と同じ？

目を引く見出しが、本文を正しく表しているか。

 ③ 何のために？

伝える目的は「みんなのため」？ それとも自分の都合？

 ④ 一部で決めつけない

ある人の情報は、その人の一面にすぎないかも。

3 映画『市民ケーン』とは

あらすじ

新聞王ケーンが、豪華な大邸宅で亡くなります。最後の言葉は「バラのつぼみ」。記者トンプソンがその意味を探るため、ケーンの前妻や友人、元部下に話を聞くと、貧しい少年が大富豪になり、新聞で人々を動かし、政治家をめざし、やがて孤独になっていく一生が浮かび上がります。

映画の歴史を変えた作品

監督・主演のオーソン・ウェルズは、この映画をつくったとき25歳でした。公開当時はヒットしませんでした。のちに「史上最高の映画」の投票で長年1位に選ばれるようになりました。

見るときの心がまえ

話の時間が行ったり来たりします。「今、誰がケーンについて話しているか」に注目しながら見ましょう。

4 メディアの力を考えるワーク

 映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

① ケーンは新聞を使って、どうやって世の中を動かした？

② 話す人によって、ケーンの影響はどうちがった？

③ 同じ出来事でも、見出しの付け方で印象が変わるのはなぜ？

④ 今の時代、「メディアを持つ者」とは誰だと思う？

5 ふりかえり

メディアを見るときは、_____が出しているかに注意が必要だと分かりました。これから、見出しや投稿を見たときは、_____を確かめたいです。

 「その情報を『誰が』出しているか。」

先生・保護者へ：『市民ケーン』は1941年の白黒映画で、暴力的な描写はほとんどありません。本資料は中学生以上を想定しています。時間軸が行き来する構成のため、事前に「ケーンの人生を複数の証言でたどる映画」であることを伝えると理解しやすくなります。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。